安城市（北陸・中部ブロック）

【計画期間　25年4月～30年3月】

・明治～：明治用水の豊かな水に育まれ、農業生産に適した温暖な気候により畜産・園芸等が盛んに行われる。明治24年に国鉄安城駅（現JR安城駅）が開設されたことに伴い、駅周辺に商店街や住居が整備され、市街地が形成されていった。
・昭和～：自動車産業の中心地である豊田市等の内陸工業都市および衣浦臨海工業都市に隣接しており、中部経済圏の一翼を担う産業都市へと発展してきた。

【中心市街地を巡る状況】

○平成10年以降、大型商業施設が相次いで中心市街地から撤退。平成14年には中心市街地に立地していた総合病院が規模拡大のために郊外に移転。来街者は減少し、空き店舗は増加。中心市街地の空洞化が進んでいる。

○中心市街地内は、地権者と建物所有者と居住者が異なる場合が多く、計画的なまちの整備が難航していたが、昭和45年以降、土地区画整理事業が進められ、市街地再整備の準備が進んでいる。

目標	指標	現況値（H23）	目標値(H29)
都市機能の集積による「にぎわいのある都市拠点」の形成	歩行者通行量（平日・休日）	平日2,750人 休日2,166人	平日2,867人 休日2,192人
安城にしかない魅力満載の「こだわり商店街」の形成	空き店舗数	64店舗	46店舗
多様な主体との連携・協働による「市民が主役のまち」	活性化事業に参加した市民の数	1,279人	1,525人

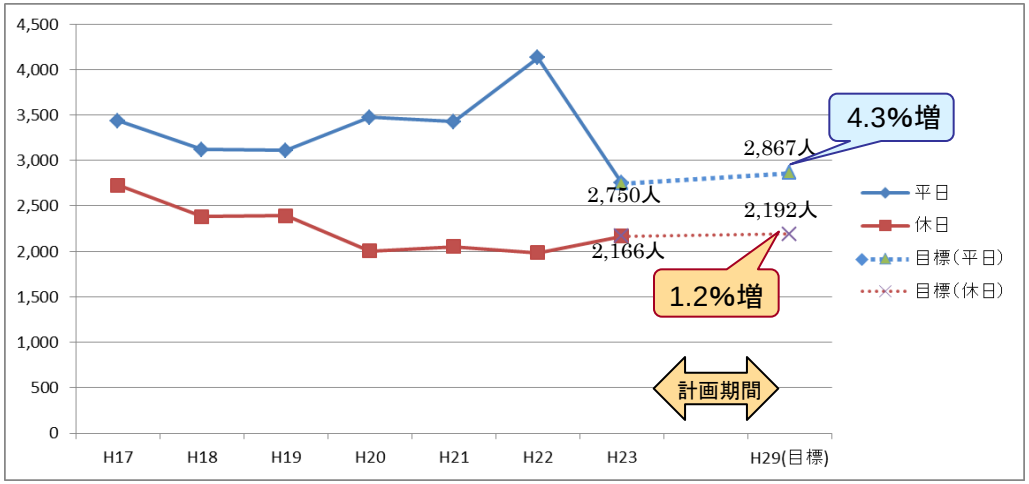
【中心市街地に関する指標の推移】

○歩行者通行量（中心市街地　平日）

H17：3,436人→H23：2,750人（▲20%）

○空き店舗数（中心市街地内）

H21：69店舗→H23：64店舗（＋7%）



【目指す中心市街地像】

○「にぎわい　こだわり　環境のまち」

戦略①集客拠点をつくり、商業・業務機能を強化する。
戦略②健康と学びの拠点をつくり、集客力を増やす。
戦略③新規商業者を育成し、こだわりのある店を増やす。
戦略④歩いて買物がしやすい環境をつくる。
戦略⑤環境にやさしいライフスタイルが実現できるまちをつくる。
戦略⑥暮らしを支えるコミュニティ機能を高める。
戦略⑦市民が活動しやすい環境をつくる。

安城市中心市街地活性化基本計画の事業概要

都市機能の集積による「にぎわいのある都市拠点」の形成

○中心市街地拠点整備事業

病院跡地を利用し、中央図書館を郊外から移転し、交流・多目的スペースや行政窓口と、民間商業施設などが一体となった拠点施設を整備することで、都市機能の集約と来街者の増加を図る。

○センターゾーン整備事業

センターゾーン（完成予定）

中心市街地に不足していた生鮮食品店等と集合住宅の複合施設を整備し、居住人口の増加とにぎわいの創出を図る。

○南吉（なんきち）観光事業

市にゆかりのある新美南吉を活かしたウォールペイントや空き店舗を利用した南吉館の運営等の観光事業に取り組み、交流人口の増加を図る。

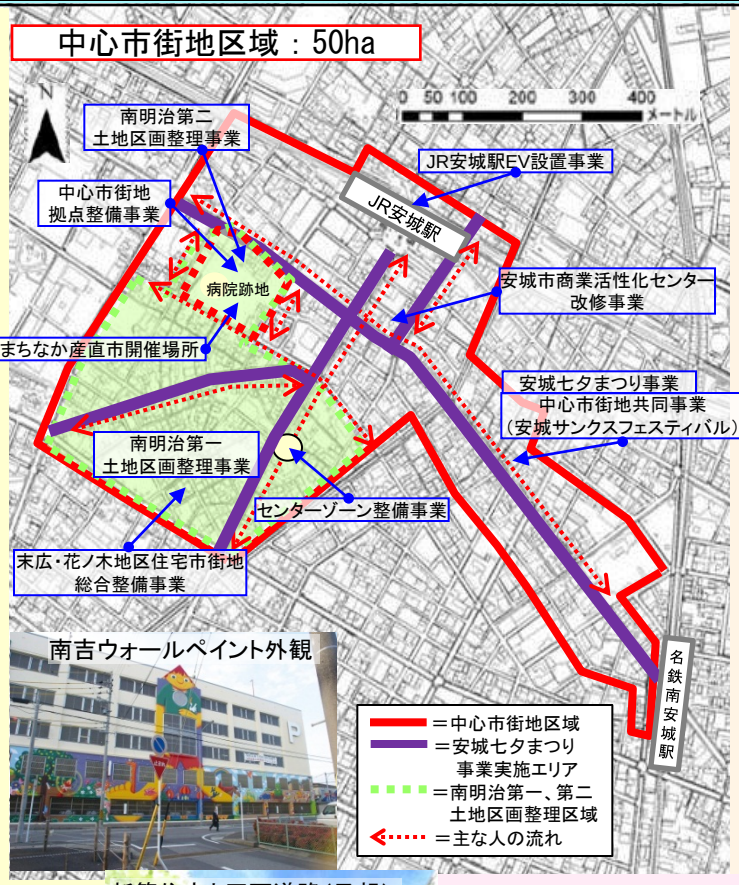
◇将来的な居住人口増を目指した住環境の整備◇

○南明治第一（みなみめいじ）・第二土地区画整理事業

ヒートアイランド及び雨水対策として遮熱透水性舗装の導入、自転車帯の設置、仮住居への太陽光発電等を実施。将来的な居住人口の増加を目指す。

○あんくるバス（コミュニティバス）拡充事業

周辺地域からの来街者の移動の利便性向上を図る。



南吉ウォールペイント外観

新築住宅と区画道路（予想）

あんくるバス南吉デザイン車両

安城にしかない魅力満載の「こだわり商店街」の形成

○まちなか産直市拡大事業

市内産の農産物等の直売市を開催。同日に商店街のバザーを開催するなど、まちの回遊性を高める。

まちなか産直市

○中心市街地共同事業（まちの教室・安城サンクスフェスティバル）

商店主が講師となる「まちの教室」の開催や情報誌の発行、イベントの開催等をとおし、来街者の増加を図る。

まちの教室の様子

多様な主体との連携・協働による「市民が主役のまち」

○安城七夕まつり事業

「願いごと、日本一。」を目指す安城七夕まつりをとおし、にぎわいの創出、交流人口の増加を図る。

安城七夕まつりの様子

○三世代交流の場整備事業

中心市街地内の空き店舗等を活用し、子育て支援機能や高齢者支援機能を導入。コミュニティ機能の強化を図る。